

日本の文字文化・漢字文化ストーリー

1. 漢字の受容、ひらがな、カタカナの創造
2. 江戸時代に普及した漢文訓読
3. 星野本店 蔵の入り口の扉の漢字
5. デザインとしての漢字 に移動
4. 漢字の伝搬～東アジアにおける漢字文化の伝播と受容
5. デザインとしての漢字
(撰田屋の書・星野本店扉・森清範師、中川一政画伯ストーリー)

1. 漢字の受容、訓読み、ひらがな、カタカナの創造

(1) 漢字の登場受容は、二千年前と言われている。

漢字が日本に渡来	2000年前
漢字の受容	1400年前
ひらがな、カタカナの創造	1200年前
ひらがなは草書から、カタカナは楷書の偏やつくりから創造された 例えば「あ」が「安」から、「ア」が「阿」から	
訓読みの創造	1200年前
漢文訓読	1000年前
日本人は、漢文を中国語の発音では読みません。 漢文の原文に返り点や送りガナを付けて、日本語の古文の 一種として読む。これを漢文訓読と言います。	
漢文訓読の普及	400年前
江戸時代、民衆文化が花開くと、日本人は遊び心をもって漢文を 楽しみ、大衆文化のネタの宝庫として漢文を活用したのです。	

日本の中学や高校では、八世紀の『万葉集』や十四世紀の『徒然草』を生徒に音読させ、訳読させます。二千五百年前の『論語』の漢文さえ、漢文訓読によって、国語として教え、それが大学入試に出題されます。

現代の日本人が、昔の文書(古文書)を読むとき、この草書、楷書から逆の変換をして元の文字を予測します。一対一で対応しているとは限らないところが、古文書解読の難しさのひとつと云われている。

2. 江戸時代に普及した漢文訓読

漢字の訓読みを発明した日本人の祖先は、「漢文訓読」も発明しました。訓読とは、外国語である漢文(古典中国語)を日本語文として読むという、定型的訳読法です。

中国人は今も昔も、当たり前ですが、漢文を中国語で「音読直読」します。日本人も、漢訳仏典、いわゆる「お経」の漢文については日本漢字音で音読直読しますが、その他の漢文については、訓読することが多いです。時代が下がり、徳川五代将軍綱吉や、綱吉の同時代人であった水戸藩主の徳川光圀は、漢文の学問に力を入れました。

武士や町人のあいだでも、漢文学習がブームになり、庶民の子弟が学ぶ寺子屋でも、『論語』などの漢文の素読が、盛んに行われました。

こうして江戸時代中期以降、漢文の素養は、日本人の血肉となってゆきました。

専門の学者が訓点を施した漢文の書籍が多数刊行され、町の本屋で売られました。

『孫子』『戦国策』『唐詩選』『十八史略』『古文真宝』などは、ロングセラーとなりました。漢文は学者だけのものではなく、町人文化のネタの宝庫にもなったのです。

江戸時代の日本人にとって、漢文は古典であるだけでなく、海外の情報を収集する手段でもありました。

4. 漢字の伝搬～東アジアにおける漢字文化の伝播と受容

書き下し文 Transcription of Chinese classics into Japanese

万葉仮名を崩して生まれた平仮名による和文と、漢文の書き下しである漢文訓読体とが合流して生まれた。

It was a mixture of a writing style modeled after a translation of a classical Chinese text into Japanese and the Japanese sentences written in hiragana (Japanese syllabary characters), which was created by simplifying the Manyo-kana, an archaic form of the Japanese language.

日本の仏教諸派に於いて、開経偈・三帰依文・誓願(四弘誓願)などと並び、在家檀信徒の日常の読経に広く用いられており、漢文書き下しを読むことも多い。As well as Kaikyoge, Sankiemon, Seigan (Shiguseigan), and other gemon, Sangege is widely used for daily sutra chanting by lay believers of various sects of Buddhism in Japan, and is often read in the kanbun (Chinese classics) style.

漢字を手放さなかった日本語(前編) 沖森卓也

「なんで日本人は漢字を用いてきたか」、あるいは「なんで漢字を手放せなかったか」。この視点がいちばん重要だと思うんですよ。これは言うまでもなく「訓(くん)」ができたからなんです。漢字の読み方というのは、本来中国語の発音の言語、文字体系のものなんですけど、それが日本に渡ってきて日本の固有語、「やまとことば」と言いますが、固有語に当てられて訓ができるんです。この訓が漢字と強く結びついていて、やまとことばが漢字で書けるようになってしまったということが非常に大きいと思うんですよ。

西嶋氏の「古代東アジア世界と日本」(研究論文の初出は1983)

西嶋氏は、漢字のみならず、漢字を媒介に、中国に起源する儒教、漢訳仏教、律令を受容した地域を東アジア文化圏と名づけ、この東アジア文化圏の形成がなされた歴史的な要因を「冊封体制」とした。

君臣関係が結ばれ、周辺諸民族の君長が冊封体制に組み込まれると、漢字を用いた国書による通交と朝貢が義務づけられ、漢字をコミュニケーションの手段として、儒教や律令、漢訳仏教が伝播し、そのような諸地域に受容された結果として文化圏が形成されるとみなした。

このようにして、皇帝の政治行動である冊封という政治システムこそが文化圏を形成させた原動力であって、冊封体制という政治圏と文化圏が一体となった地域世界を東アジア世界と名づけた。十世紀、その集大成的制度の唐王朝の衰亡と冊封関係の崩壊が、東アジアに大変動をもたらし、日本では追従する目標がなくなり、独自の歩みを促進することになった、ことを重視した。